

瀬戸の間

持家共同建

居室

リフォームの動機/設計・施工にあたって工夫したこと

瀬戸の海を全貌できる、築20年の古いマンションを全面改修し、新しく現代に生き返らせる仕事です。

今回、初めてマンション生活始める老夫婦の為に、箱的空間の中にどう本人に必要なライフステージを表現するか、これからの高齢化社会の中、避けて通れないテーマとなった。

現代の、特にマンション生活は物がいっぱい、生活空間が潰れている感じです。もともと日本の和空間というのは空っぽで、座布団ひとつで空間が生きていたし、今より狭い空間の中でも十分生活が成り立っていました。限られたマンションという空間、現代生活の中では空間を美しく維持することは難しく、

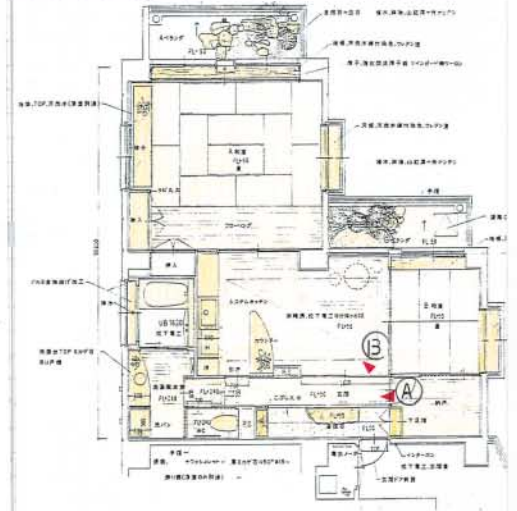
本来の日本的、美の中に考えを求めることで、心理的にも効果をj出せるのでは。

障子越しの光、夜の月明り、軒下の影
それらが空間の中にも造り出す、陰影のドラマ

人の目がそこにとまり、そっと心がそそられる。明け方や夕暮れに、障子越しの光を楽しむそんな日本的なエスティック感の中に、これからの空間構成の可能性を思い、また、再確認できた仕事です。

リフォーム前

リフォーム後



透けの光はこの形で折られていく



リフォーム前後の写真



1

2

3

B

データ

所在地	香川県高松市		
構造・築年数	鉄筋コンクリート造	築後年数	25年
工事面積	該当面積 100 m ²	総工事床面積	100 m ²
居住者構成	2人(大人2人(うち高齢者2人)/子供人)ベット		
竣工時期	平成14年10月		
設計・工事期間	実設計期間 30日間	施工期間	30日間
工事費	該当部分 1500万円	総工事費	1500万円
設計者	長尾勝彦+デザインオフィス	担当者名	長尾勝彦
施工者	藤原住器	担当者名	藤原 準